

タンザニア・ポレポレクラブ

2024年度 事業計画書



タンザニア・ポレポレクラブ

〒182-0005 東京都調布市東つつじヶ丘 2-39-11 アザレアヒルズ 203
(Tel/Fax) 03-3300-7234、(E-mail) pole2club@polepoleclub.jp
(HP) <https://polepoleclub.jp/>

2024年度 事業計画



キリマンジャロ山の森林管理について協議するモシ県下の森林に沿う 40 村の村長たち

【海外事業】

概況

タンザニアの今年そして来年の話題は、なんといっても選挙でしょう。2024 年が地方自治体選挙、2025 年が総選挙になります。すでに選挙キャンペーンも始まり、ザワザワとした雰囲気が出ています。

当会の活動地であるキリマンジャロ州は、歴史的背景もあり与党革命党（CCM）がどうしても勝てない州の一つでした。しかし故マグフリ大統領政権下で行われた前回選挙で CCM 総取りの結果となり、今日に至っています。この 5 年間、店ざらしにされてきたキリマンジャロ山のかつての里山の森“ハーフマイル・フォレスト・ストリップ（HMFS）”の問題も含め、CCM の施政に対する同州での風当たりは強いように感じます。

さらに前回の地方自治体選挙では、最大野党でキリマンジャロ州を基盤としていた民主進歩党（CHADEMA）が、立候補への妨害、登録拒否などを理由に、選挙から撤退してしまいました。このため村人たちには、村長選で実質的に選択肢のある選挙ができなかった（CCM 支持候補者しか選べなかった）という大きな不満があります。こうしたことから、今年の地方選（恐らく 11 月）では、多くの村で村長が入り替わる可能性があります。そうなれば、モシ県下の森林に沿う 40 村と協力している当会の活動にも、大きな影響が出ることは間違いありません。

強権的な政権下で実施されたいびつな選挙によって、せっかく築いてきた村々との協力の土台が揺るがされる状況を苦々しく思います。こうした協力関係の維持、強化をどう図っていけるのか、2024 年度は問われることになるでしょう。

1. 世界遺産キリマンジャロ山におけるバッファゾーンの森（HMFS）への国立公園拡大問題の解決

キリマンジャロ国立公園に取り込まれた山麓住民の生活を支えてきた旧バッファゾーンの森（※）。住民は生活資源や家畜の餌、薪などの採集ができなくなっただけでなく、厩肥不足による土壌肥沃土の低下、作物の生産性低下にあえいでいる。さらに国立公園レンジャーによる住民の殺人、暴行など、安心して暮らせる環境が奪われている。

（※） ハーフマイル・フォレスト・ストリップ（HMFS）と呼ばれ、日本の里山の森に相当。

●課題1： 国会議員、タンザニア森林局長官との協議

2023 年度に実現できなかったキリマンジャロ選出国会議員およびタンザニア森林局（Tanzania Forest Service:TFS）長官との協議実現を引き続き目指す。大統領に国立公園拡大による問題を正確に伝え、判断してもらうために必要と考えている。議員との協議実現を優先する。TFS 長官は、専門家としての助言を得るためだが、議員の同意が得られた場合にのみ協議の実現を目指す。

●課題2： 40 村との協力関係の維持、強化

2024 年末に実施される地方自治体選挙の結果を待って、選出された 40 村の新村長を集めた合同会議を実施する。会議では、店ざらしとなっている国立公園拡大の問題を、地域で連帯して解決していくための認識共有と、行動計画への合意形成を図る。



キリマンジャロ山で協力している 40 村があるエリア（白枠内）

2024 年度植林予定地：①キルアヴンジョー、②西キルア

●課題3： より幅広い協力体制、関係の構築

国立公園拡大の問題では、現在取り組みへの助言と調査等による活動協力でタンザニアの人権団体・法と人権センター（Legal and Human Rights Centre：LHRC）と協力している。同センターとの協力は 2024 年度も継続するが、さらにその他のタンザニア国内組織、専門家との連携強化を模索する。2024 年度は大学およびコミュニティによる自然資源管理等を専門とする研究者との関係づくりに取り組む。

2. 植林活動

●課題1： 村落エリア裸地尾根での7千本の植林実施

HMFS での植林ができないことから、キリマンジャロ山での植林は、村落エリアにある裸地尾根への森林回復が主力となっている。2024 年度は、①キルアブンジョー区の裸地尾根で 3,000 本、②西キルア郡の裸地尾根で 4,000 本の合計 7 千本の植林に、山麓住民および地元小学校と協力して取り組む（前ページ画像参照）。

●課題2： HAKIMAMA によるモデル植林地の実施

40 村の連帯を強化するとともに、政府に山麓住民の森林回復、保全能力の高さを実証的に示していくためのモデル植林地が必要であると考えている。このため、40 村の連合組織 HAKIMAMA のモデル植林地を設定し、植林に取り組む。場所はキレマ、ムウィカ、キボシヨ地区の中から選定する予定であるが、40 村との協議により決定することとする。植林数は 1 千本とし、これを毎年継続する。

●課題3： 蜜源樹3千本の配布

HMFS の国立公園への取り込みにより、山麓住民の生活は苦しさを増している。キリマンジャロ山に暮らしているチャガ民族の伝統畑であるキハンバも地力維持が困難となり、コーヒー栽培で潤った生活はもはや過去のものとなっている。こうしたことから、植林を通じた新たな収入源の創出（養蜂）を目指し、山麓村での継続的な蜜源樹の配布を行い、キリマンジャロ山で良好な養蜂環境の整備に取り組む。



蜜源樹カリアンドラの花。土壌も肥やし、飼料にもなる優れた樹種である。

3. 養蜂

キリマンジャロ山ではかつて山麓住民の収入の柱であったコーヒー栽培がその地位を失いつつある。養蜂は苦しくなる家計を補うための新たな収入稼得手段となるだけでなく、木を切って売ることが収入になるのではなく、木（蜜源樹）を植え、豊かな森をつくるのが収入に繋がっていく取り組みでもある。またそのことが同時に、村人たちの森林保全や植林への意欲を支えていくことになる。

●課題1： 害虫対策

キリマンジャロ山での養蜂の最大の障害となっているのがスモール・ハイブ・ビートル (*Aethina tumida*) による虫害である。これへの対策なしに、養蜂を成功させることは難しく、解決への目処をつける。一度侵入を許してしまうと捕獲や排除は困難なため、養蜂箱側で行う侵入防御対策にさらに改良を加えることとする。

●課題2： 養蜂箱20箱を増設

害虫防御に目処が立った場合、対策を施した養蜂箱 20 箱を作成し、設置する。

4. 改良カマド普及

タンザニアで森林減少の最大の要因となっているのは、日々の煮炊きに用いられる薪炭材消費である。現地で一般的な三ツ石カマドを燃焼効率の良い改良カマドに置き換えることで、薪消費を6割以上削減することができる。森林の減少を抑制し、さらに回復を図っていくためには、直接緑を増やす植林と同時に、緑を減らさないための改良カマドの普及に取り組んでいく必要がある。

●課題1： 新型改良カマド 50 基の設置

2023 年度に設置エリアをキディア村まで拡大したが、2024 年度も同村を含め、引き続きテマ村を中心に普及拡大を図る。設置基数も前年度の 30 基から大幅に増やし 50 基とする。

●課題2： カマド職人 1 名の養成

新型改良カマドの設置能力（現在 50 基/年）を拡充するため、カマド職人の養成に取り組む。改良カマドは家族の人数や使用頻度の高い鍋のサイズなど、各家庭の条件に合わせたものを作る必要がある。このため職人の養成は、時間はかかってもこうした条件にどう合わせていくかを、現場で指導を受けながら習得していく OJT 方式が望ましい。2024 年度は 5 基程度を現在の職人とともに設置する方法で新たな職人 1 名を養成する。

●課題3： 代替炭事業の立て直し

現地カウンターパートの TEACA が、海外団体からの支援で立ち上げた代替炭プロジェクト（作物残渣利用ブリケット）が、頓挫したまま設備が遊休となっている。現在タンザニア政府はグリーンエネルギーへの転換を推進しており、公的助成を得て事業のてこ入れができないかを検討する。



遊休となっている代替炭プロジェクトの設備

5. 裁縫教室支援

裁縫教室は、家庭環境など様々な事情で中等教育進学のを絶たれてしまった少女たちを中心に、彼女たちの自活を支援していくことを目的として運営している。2023 年に政府職業訓練校から独立し、新たな体制、制度のもとでの生徒確保が課題となっている。

●課題1： 土砂崩れ被害からの復旧

2024 年大雨季の豪雨により、寄宿舎及び寄宿舎に付帯した教師住宅が土砂崩れ被害に遭い、教師住宅は壁が壊れ、居住ができなくなっている。教師は家族とともに避難生活を余儀なくされており、教師住宅の修復を行う。

●課題2： 生徒の確保

これまでのキリマンジャロ州（モシ、パレ、ニユンバヤムンゲー）、シンギダ州での募集に加え、新たにマニャラ、ドドマ州でも生徒募集広報を行う。また、タンザニアの学期制度にこだわらず、親の支払い能力に余裕の生まれる作物の収穫期後に募集が可能かについて検討する。

●課題3： 教師人件費の支援

2023 年度に続き、教師人件費は全額を当会にて支援する。

6. 診療所支援

●課題1： 機材支援

支援しているテマ診療所では、保険がまだ適用されないことが住民にとってのハードルとして残っている。保険適用のためにはインターネットの接続環境の整備と、指紋の登録・認証装置が必要とされており、これらの整備を当会として考える。ただし、最終的に何を優先するかは医師との協議により決定する。またこれらの整備によっても、県医療局による査察を受ける必要があり、その日程が県から示されない状態が続いている。このため村の診療所委員会と、査察の実施をどうプッシュしていくかについての話し合いを行う。

●課題2： 村における病気発生状況の分析

2024 年末には、診療所受診者の月別、疾病別の 1 年分のデータが蓄積できる。これを診療所にフィードバックするとともに、過去のナティロ診療所のデータとの比較分析を医師と行い、村の診療に役立ててもらう。

7. 学校への文具支援

●課題

植林活動に積極的に取り組んでいるマヌ小学校および昨年度苗畑を立ち上げたオリモ小学校への文具支援を継続実施する。また TEACA との協議により、苗畑を運営しているムエ小学校を加えるか検討する。

【国内事業】

1. ニュースレター発行

●課題

ニュースレターは最低年2回発行とし、できる限り3回発行を目指す。また現地からのハガキ通信は最低1回を発行することとする。

2. 現地事業視察、ホームステイ受け入れ

●課題

当会の活動への理解を深めていただき、またタンザニアと日本の人々をつなぐ交流の場として、2024年も現地視察とホームステイの受け入れを継続する。また受け入れを行った場合、受け入れプログラムの改良や現地へのフィードバックのために、簡単な感想を提出してもらうようにする。

3. 企業との関係づくり

●課題

タンザニアでの取り組みに新たな視点や知見、技術を取り入れていくため、当会の活動と関連のある分野で事業に携わる日本国内の企業あるいはアフリカで事業展開をしている企業との関係づくりに引き続き取り組む。

4. ホームページでの決済システムの見直し

●課題

タンザニア・ポレボクラブのホームページから、クレジット決済による会費および寄付の手続きが可能となっているが、現在使用している決済システムのシステム利用料、手数料が高いため、クレジット決済代行会社を使わない決済システムへの組み替えを検討する。



タンザニア・ポレポレクラブ

(事務所) 〒 182-0005 東京都調布市東つつじヶ丘 2-39-11 アザレアヒルズ 203
(Tel/Fax) 03-3300-7234、(郵便振込口座) 00150-7-77254
(E-mail) pole2club@polepoleclub.jp、(HP) <https://polepoleclub.jp/>
(本 部) 〒 107-0062 東京都港区南青山 6-1-32-103
